

むさしの TALK

福祉先進都市・武蔵野市で 安心できる豊かな老後を生きたい

上野千鶴子さん

老いの現実や心構えを説き、話題となった『おひとりさまの老後』。著者の上野千鶴子さんに福祉を中心に武蔵野市の感想を語っていただきました。



上野千鶴子(うへのちづこ)

1948年富山県生まれ。社会学者。東京大学名誉教授。立命館大学特別招聘教授。NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長。女性学、ジェンダー研究のパイオニア。近年は高齢者の介護問題に関わり、著書の『おひとりさまの老後』(法研)が話題に。近著は『映画から見える世界—観なくても楽しめる、ちづこ流シネマガイド』(電子本ピコ第三書館販売)。

PRESENT

今回取材した、上野千鶴子さんの直筆サイン本『おひとりさまの老後』を抽選で5名様にプレゼント!詳しくは本誌折り込みハガキをご覧ください。



武蔵野市に転居してきて3年になります。"エキナカ"の商業施設がとても便利で良いですね。コンビニやこうした施設は高齢者の生活を支える大事なインフラですから、どんどん発達してほしいと思います。

私が武蔵野市に転居を決めた大きな理由は、このまちが福祉の先進地域だからです。私は高齢者の介護を研究しているので以前からこの地域に注目していましたが、ついに自分が住民となったわけです。

武蔵野市は、日本で初めてリバー・スモーゲージを始めた福祉公社があり、またコミュニティカフェも発達しているエリアです。コミュニティカフェは、多世代の居場所であったり、活動の場ともなる地域施設で、NPOや市民団体の活動の受け皿にもなっています。その中でも、高齢者や乳幼児向けのサービスなどを提供している「テンミリオンハウス」をご存知ですか。運営する団体に市は年間一千万円を上限に補助金を出しています。同じレベルの支援がで

きている自治体は今のところほかにありません。

日本では現在、約8割の人が人生の最期を病院で迎えています。でも「自分の家で最期を迎えたい」、そう思う人は多いのではないのでしょうか。その願いをかなえるには多くの支える手が必要です。

私が入居しているマンションも高齢化が進んでいます。ここで最期まで暮らせるような体制作りが協力できればと思っています。やはり人間は幅広い世代が住んでいる多様性のある場所の方が住みやすいものです。自分が住みたい場所で暮らし、それを支える援助がある、そういう地域の介護資源を作れるように私も尽力していきたいです。

